

公益社団法人 日本地下水学会
2016 年度 第3回 理事会議事録

1. 開催日時：2016 年 6 月 11 日（土） 13:30～18:15

2. 開催場所：日本工営(株) 九段オフィス 西棟1階 1-3会議室
〒102-8539 東京都千代田区九段北一丁目14番6号

3. 理事総数：15 人

4. 出席理事数：13 人

○：出席，×：欠席

理事	今村 聡	×	理事	今井 久	○
理事	小野寺 真一	○	理事	川端 淳一	○
理事	高坂 信章	○	理事	坂本 大	○
理事	白石 知成	○	理事	杉田 文	○
理事	鈴木 弘明	○	理事	竹内 真司	○
理事	谷口 真人	○	理事	徳永 朋祥	○
理事	中川 啓	○	理事	中屋 眞司	×
理事	古川 正修	○			

5. 出席監事数：2 人

監事	平山 光信	○	監事	村田 正敏	○
----	-------	---	----	-------	---

6. 議長の氏名：代表理事（会長）谷口 真人

代表理事谷口 真人 は議長席につき、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、13時30分本理事会の開会を宣した。

7. 代表理事の活動状況：

①5/7（土）：2016年度代議員総会参加

②5/14（土）：2016年度春季大会参加、若手地下水研究助成申請者の審査対応、2015年度秋季大会若手優秀講演賞の表彰

③5/23（月）：地球惑星科学連合大会(JpGU)の学協会会長会議に日本地下水学会会長として出席

④5/25（水）：2016年度第1回水関連合同誌準備協議会へ出席

⑤2015年に開催されたシンポジウム「地下水の保全、涵養および利用に関する法制化に向けた現状と課題」の内容を学会誌の特集号論説として投稿、受理（次号に掲載予定）

8. 決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名：該当する理事はいない。

9. 議事録作成者：理事 小野寺 真一

10. 理事会資料

- 理事会資料－ 1：2016年度 第3回理事会 議事次第
- 理事会資料－ 2：2016年度 第2回理事会議事録（案）
- 理事会資料－ 3（3種）：企画委員会資料
- 理事会資料－ 4：行事委員会資料
- 理事会資料－ 5（2種）：渉外委員会資料
- 理事会資料－ 6（9種）：編集委員会資料
- 理事会資料－ 7：調査研究委員会資料
- 理事会資料－ 8：市民コミュニケーション委員会資料
- 理事会資料－ 9：広報・IT 委員会資料
- 理事会資料－10（6種）：若手支援・男女共同参画委員会（YEPS）-若手地下水研究助成関係-資料（取扱注意or要回収資料）
- 理事会資料－11：技術者継続教育担当資料
- 理事会資料－12：欠番
- 理事会資料－13：欠番
- 理事会資料－14（9種）：総務委員会資料
 - 14-1：第3回理事会資料
 - 14-2：著作権規程
 - 14-3：表彰規則
 - 14-4：入退会リスト
 - 14-5：文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞
- 理事会資料－15（2種）：将来構想ワーキンググループ資料

【審議事項】

第1号議案：（資料-2）

- ・ 前回議事録（案）について
6月9日付総務委員長発議のメール審議にて、前回議事録（案）の内容は既に承認されたが、一部の表記の統一（句読点）を行い修正することを確認した。

第2号議案：（企画：資料-3）

- ・ シンポジウム・講習会などの開催について（案）について
7月25日-26日開催の移流分散シミュレーション講習会（中野政詩先生）および10月6日-7日開催の揚水試験講習会については承認された。12月上旬開催予定のシンポジウム「水循環基本計画の下での地下水関係の取組」については、開催は承認されたが日程が再検討されることとなった。また、シンポジウムについては、学会誌で特集号を組む予定であることが報告された。いずれも開催場所は日本大学である。

第3号議案：（編集：資料-6）

- ・ Web投稿編集管理システムの導入について
編集委員会提案のエディトリアルマネージャーの導入を審議した結果、その重要性を認め予算配備

も含めて承認された。

第4号議案：（総務：資料-14-2）

- ・ 著作権取規定について

予稿集に著作権の規定に関する記載がないことから、今後裏表紙に記載をすることが提案され、承認された。

第5号議案：（総務：資料-14-3）

- ・ 表彰規則改正について

代議員会で提案のあった「表彰期間を2年おきから1年おきに変更できないか」というものを受けて審議を行った結果、論文賞、奨励賞については編集委員会で審議をしてもらった上で再提案をしてもらうこととし、その他については、現状のままとすることとした。これは、従来の選出方法が絶対評価であり、結果として複数名が選出されうること、さらに母数の低下がもたらす賞の価値の低下に対する懸念などの理由があげられた。

第6号議案：（総務：資料-14-4）

- ・ 入退会者について

本年度の正会員11名、準会員3名の入会が、正会員3名、特別会員1団体の退会が審議され、承認された。特別会員については、自治体などの入会に向けてメリット（参加費無料など）を明確化するなどの工夫が必要である等の課題も指摘された。

第7号議案：（総務：資料-14-5）

- ・ 文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞推薦

審議の結果、今年は広く公募（今年は6/30まで締切）することとした。また今後に向けては中長期的に候補者選定を戦略的に行っていくことについても議論された。

【報告事項等】

1. 行事委員会（資料-4）

- ・ 先の春季大会（東京農工大学開催）について報告がなされた。講演数30件（口頭22件（若手15件）、ポスター8件（若手3件））、企業展示5社、参加者142名など、盛況ぶりが目立った。その一方で、予稿集広告が0社と課題もあった。ポスター会場と企業展示を同じスペースにした点は評判が良かった。
- ・ 若手優秀講演賞について、口頭で2件、ポスターで2件が表彰委員会に推薦される旨報告された。ポスター賞については2/3という高い選出率である点について意見が出されたが、委員会側では、あくまでも絶対評価の結果であり従来に比べてレベルに大きな差はないと回答された。
- ・ 秋季大会（長崎大学；社会科学系発表もある）、来春（日本大学；5/20）、来秋（弘前）の予定について紹介された。
- ・ 地下水汚染集会についても、2017年11月9日-12日に沖縄開催であることが紹介された。

2. 企画委員会（資料-3）

- ・昨年開催のシンポジウムの特集号について報告がなされた。本学会誌（2(5月末)号、3(8月末)号）に掲載予定で、予定の7編すべてが受理にこぎつけられた。ただし、1編は校正で問題がありやや長くかかった。
- ・平成28年度セミナー「震災時の地下水利用」（仮称）について、2017年1～2月に開催を計画し、本学会誌で特集号も企画していくことが報告された。これに対して、熊本震災対応の活動なども入れられると良いなどのコメントが出た。熊本の調査研究については、調査研究委員長（中川理事）から現状について報告がなされた。熊本大学も現地で研究を継続していることから、地下水学会としては、中・長期的な評価を目的とした活動が相応しいという意見も出た。

3. 渉外委員会（資料-5）

- ・「JpGU 代議員選挙への要望」に対する回答について報告がなされた。具体的には、JpGU 会長からは先送りの回答であったが、引き続き検討することとなった。ただし、水関連学会の投票率、意識がそれぞれ低いことについての改善も必要である。関連して会長から、マスタープラン2017ヒアリングについて紹介があり、今後学会単位で2020年のプラン作成に向けての準備が必要であるとコメントされた。
- ・PEPS（JpGU 国際ジャーナル）編集委員会（年5回）について、2015年46編掲載され、7万件のダウンロードがあったことなど好評ぶりが紹介された。投稿は半分が日本であること、査読は3割がUSであることなど課題もあるようである。
- ・2016年水関連合同誌関連協議会（HRL 誌）については、新たに本学会選出のAEとして前田守弘氏（岡山大学）、吉本周平氏（農工研）が承認されたこと、科研費出版助成は採択されなかったこと、次年度以降出版経費の出資が必要なことなどが説明された。

4. 編集委員会（資料-6）

- ・委員の交代、2号の印刷・発行状況、3号（8月末）の編集状況の報告がなされた。3号については、校正必要原稿（論文等）の入稿締め切りが今月中で、会告、理事会・委員会報告記事の入稿締め切りが7月25日であることが確認された。
- ・5月28日開催の委員会内容の一部について紹介された。（1）一般投稿数減少傾向に対する対策案として、行事委員会と連携し大会優秀講演を推薦してもらうこと、特集号を公募すること、調査研究委員会と連携することなどが説明された。今後、企画委員会ベースの「はじめての揚水試験」セミナーなどと連動した誌面講座や、他学会との境界領域のテーマを取り上げた特集号など、チャレンジ性も必要である。（2）編集委員会のWeb論文管理システム導入WGによる活動が紹介され、導入のメリットの検討結果、およびエディトリアルマネージャーとスカラーワンを比較した内容について具体的に提示された。価格や操作性の点では後者、機能、他学会との連動、アフターケアなどの点では前者がそれぞれ優れており、総合的には前者の導入が推薦された。

5. 調査研究委員会（資料-7）

- ・委員会の報告がなされた。（1）古川正修、西村宗倫、利部 慎委員の3名が増員された。（2）地域データベース作成の現状と今後の方針を確認し、今年度中に資料等で学会誌に掲載すること、HPに掲載することを確認した。（3）熊本地震への対応について検討した。この内容については、企画委員会報告に、セミナーの議論に関連して記載されている。

- ・VV 研究 G の委員募集についての会告を 2 号（5 月号）に掲載した。
- ・今秋の長崎大会におけるミニシンポについて紹介された。120 分程度で、Ty 先生による Darcy レクチャーに合わせるように、宮本先生、開発先生、谷口会長に現地、モデル研究事例および水循環基本法対応について紹介するようなプログラムである。谷口会長については、コメンテーターとして位置づけた方が、会場の聴衆に解説することもできるなどの点で有効ではないかという意見が出された。

6. 市民コミュニケーション委員会（資料-8）

- ・10 月 1 日（土）開催の湧水めぐり（埼玉県 富士見市 決定）に関して、下見などが行われていることと、今後の計画が報告された。
- ・HP に掲載されている Q&A を第三者が引用・転載する場合の対応に関して議論した。学会が不利益となる引用・転載を避ける意味でも、プライバシーポリシーを掲載し、転載許可願いの提出を求めることとした。

7. 広報・IT 委員会（資料-9）

- ・HP の更新を進めたことが報告された。
- ・HP アクセスについて、65,000 件/年、日本が 60,000 件という状況であること、「Q&A」へのアクセスが多いことが紹介された。ただし、アクセス数の多いページから連動して別のページに行きやすい工夫が必要である。

8. 若手支援・男女共同参画委員会（YEPS）（資料-10；取扱注意 or 要回収資料）

- ・若手地下水研究助成審査結果について、3 名（2 名が学生）への助成が決定したことなどが報告された。ただし、研究助成であれば金額が小さいので、若手への助成を目的とすることとし、助成額に差がつけられた。本件の公表は、学会誌にて発信していく予定である。課題については、次年度以降順次改善していく予定である。予算の管理方法や企業の若手からの募集などである。

9. 技術者継続教育担当（資料-11）

- ・ジオスクリーニングネット掲載行事・CPD 登録・記録見直しや JABEE について、報告がなされた。CPD 登録・記録見直しについては、講演会発表のポイントが低下したことなどである。論文査読などのポイントも今後エビデンスが必要になるなどの点で、編集委員会などの準備も必要になるだろう。

10. 表彰委員会（資料なし）

- ・2 年に 1 度の表彰の年であることから、学術賞・技術賞公募の会告を出すことが報告された。また、編集委員会にも選出の準備を進めるように依頼があった。

11. 総務委員会（資料-14）

- ・各種規程について新規作成予定であることが紹介された。ただし、あまり明文化しない方が良いという意見もあるため、前川氏（国際航業）にも相談し検討する予定である。
- ・内閣府・公益認定委員会対応・受託対応、特別会員を増やすための方策について、今年度の行事に

スケジュールについて紹介・確認された。

12. 将来構想ワーキンググループ（資料-15）

・本学会の将来構想に関する活動報告がなされ、会長の3ビジョンに基づく地下水学会のミッション、骨太なアクションプランについて紹介がなされた。ただし、10年間のビジョンとなっているため、今後具体的なスケジュール（ロードマップ）を作成していく作業が必要となってくる。特に、事務局機能の強化など、予算措置などについての早急な検討が必要である。また、数年に1度は達成度の評価を行うことが必要である。今回のWG活動が終了したことは報告するが、詳細については現状控えることとした。さらに、今回の終了を踏まえた巻頭言について、座長の徳永副会長に編集委員長から依頼があった。

以上をもって本日の議事が終了したので、議長は18時15分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し代表理事及び監事が次に記名押印する。

2016年8月27日

公益社団法人日本地下水学会 理事会

代表理事：谷口 真人



監 事：平山 光信



監 事：村田 正敏

